

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2011年 10月 18日

派遣者氏名（専門分野）	川越道子（日本学）
-------------	-----------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	アメリカ地域社会におけるマイノリティのコミュニティ形成に関する実証的研究—ニューオーリンズのベトナム人コミュニティを中心として—
-------	--

派遣期間

2011年 7月 15日 ～ 2011年 9月 15日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	アメリカ合衆国	サンフランシスコ	グライドメモリアル教会、Indochinese Housing Development Corporation 他	
	アメリカ合衆国	ロサンゼルス	「リトル・サイゴン」	
	アメリカ合衆国	ニューオーリンズ	Mary Queen of Vietnam Community Development Corporation	グエン・テ・ビエン神父

派遣先で実施した研究内容

今回の派遣研究の目的は、移民国家アメリカにおいて、1975年以降、難民や移民として同国に來住したベトナム人のコミュニティをめぐり、その形成過程を理解しながら、今日の状況や課題、そして地方行政や非営利団体の取組みを検討することである。サンフランシスコ、ロサンゼルス、ニューオーリンズの各ベトナム人集住地域を訪ねて、地域の宗教団体や非営利団体の活動に参加するとともに、現地調査と資料収集を実施した。具体的な研究内容は以下のとおりである。

1. サンフランシスコでは、同市在住ベトナム人の集住地域の一つであるテンダーロイン地区において調査を行った。まず同地区の社会活動の中心といえるグライドメモリアル教会にて、低所得者やホームレスを対象に実施される **Free Meal Program** にボランティアとして週に3日参加した。その傍ら、テンダーロイン地区におけるエスニックマイノリティの混在状況を明らかにするため、同地区の店舗や住宅を記載した地図を作成した。さらにグライドメモリアル教会をはじめ、同地区にある以下の非営利団体（Vietnamese Youth Development Center、Indochinese Housing Development Corporation、Roaddawgz Homeless Youth Creative Drop-in Center、The Vietnamese Community Center of San Francisco、Vietnamese Elderly Mutual Assistance Association）を訪ねて、活動内容や現在の課題について聞き取り調査を行った。サンフランシスコ公共図書館では、サンフランシスコ、そしてテンダーロイン地区の歴史的変遷に関する文献資料を収集した。

2. ロサンゼルスでは、在外ベトナム人コミュニティとして最大の規模を誇るオレンジ郡の「リトル・サイゴン」を視察した。同時に、日本においてこれまで生活史を聞き取ってきたベトナム人インフォーマントの紹介により、同地に在住するベトナム人3家族を訪問し、在米生活について話を聞いた。

3. ニューオーリンズでは、2005年のハリケーンカトリーナによる被災後に活性化した、ニューオーリンズ・イーストにあるベルサイユ地区のベトナム人コミュニティにおいて調査を行った。

裏面に続く

同年 12 月にコミュニティ住民の生活状況の向上を支援する目的で発足した非営利特定活動団体「Mary Queen of Vietnam Community Development Corporation (以下、CDC と略す)」では、ボランティアとして団体の各支援プログラムに参加した。同時に、団体の専従スタッフ 8 名に対して活動を通して変容したスタッフ個人の意識などについてインタビューを行った。またトゥレーン大学のマーク・バンランディハム教授が代表を務める KATIVA-NOLA(Hurricane Katrina's Impacts on Vietnamese Americans Living in New Orleans, LA) 研究班の会議に出席し、研究班メンバーとの交流、意見交換を行った。同大学の文化人類学科のアリソン・トゥイット教授とは、個別に面談し、貴重な助言を賜った。これら研究班や研究者との交流のおかげで最新の研究成果を学び、CDC やトゥレーン大学図書館において主要な文献資料を収集することができた。

ベルサイユ地区では、CDC の代表であるグエン・テ・ビエン神父のご厚意により、ベトナム人カソリック教会信者の家庭において 1 か月弱ホームステイをしながら調査を進めることができた。そのため、資料収集や聞き取り調査以外に、ホームステイ先において寝食をともにしつつ、コミュニティにおける暮らし、信仰とともにある生活、在米ベトナム人の家庭における世代間のギャップやそこに生まれる緊張感などに直接触れることができた。ホームステイ先の家族と一緒に参加した日曜ミサや教会の母語教室の運営会議は、「調査者」とは異なる、割り切りがたい位置や視点からコミュニティを検討する機会となった。現地調査を行うには充分とはいえない短期間の滞在だったかもしれないが、その分、深く巻き込まれつつ、現地での濃密な体験が得られた。

## 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

研究の当初の目的・計画の達成状況：

これらの 3 都市のベトナム人コミュニティを調査してまず明らかになったことは、「Vietnamese American」と括りがたいほどに、各コミュニティの特質や生活状況が地域によって大きく異なることである。今回のアメリカにおける調査の問題関心の背景には、これまで派遣者が調査を行ってきた在日ベトナム人や在神戸ベトナム人コミュニティの直面している多数の課題が、常にあった。災害後に活性化したという共通の背景より、当初、ニューオーリンズのベトナム人コミュニティと在神戸ベトナム人コミュニティとの比較検討を予測していたが、現地調査の結果、上記の都市の中では、最もベトナム人人口が少なく、小さなベトナム人コミュニティであるテンダーロイン地区の状況が日本のベトナム人コミュニティに類似していることが分かった。そのため、渡航後、同地区での調査期間を延ばし、各非営利団体での聞き取り調査を丁寧に変更した。

一方、ニューオーリンズでは、ベトナム人コミュニティの形成過程やハリケーン後のコミュニティの動向について、災害前後より多角的に対象地域を考察してきた研究者や研究班の成果の蓄積の上に、とりわけ非営利団体 CDC の活動や支援の在り方に着目して検討した。またロサンゼルス「リトル・サイゴン」視察を日程に加えることにより、移住者がむしろ「マジョリティ」となり、移住者による移住者を対象とした大規模な商業地域、さらに移住者の母語や文化での生活圏の形成を可能にするアメリカ社会の状況を認識することができた。上記 3 都市のベトナム人コミュニティを訪問することによって、それぞれの特質がさらに際立ち、比較検討することが可能になった。明らかにできた成果：

1. 言葉の壁による就業の制限、母国文化保持や母語教育に関する課題、孤立する高齢者など、移住者が直面する問題は、アメリカにおいても同様に見られることが明らかになった。
2. それら問題に対して、地方行政や財団、企業などによる公的資金をはじめ、個人の寄付などによって支えられた非営利団体や宗教団体が積極的に支援活動を展開していた。
3. 日本の活動と比較して、青年層（16～25 歳）を対象とした非営利団体活動やプログラムが充実していた。そうしたプログラムに参加していた者、または移住当初、支援を受けていた若者が、活動に参加するうちに被支援者から支援者となりコミュニティを支える側になる、といった「循環」が確認された。
4. 非営利団体スタッフへの聞き取りより、コミュニティで生まれ育ち、そこに暮らすことと、

裏面に続く

実際にコミュニティ活動に関わることは別のものであり、活動に参加することを通してコミュニティの抱える問題を認識し、改めてコミュニティの在り方を意識した、という声が多く聞かれた。

5. 在米ベトナム人がコミュニティを形成する場所は、概して、カンボジア、ラオスからのインドシナ難民や南米からの移民などの他国からの移住者、あるいは高齢者や障害者といった低所得者やホームレスの集住地域と重なり合う場合が多い。そのような地域において支援対象者を限定しない非営利活動が実施される一方で、利害関係が生じやすいことから、移住者やマイノリティ同士間の軋轢や偏見が成立しやすい状況が散見された。

6. 現地調査を通して、同地で研究や調査活動を行っている研究者や非営利団体スタッフ、地域に暮らす人々と積極的に交流することができた。とりわけ同世代の若手研究者や活動家との出会いは非常に貴重なものであり、これらの関係は今後とも続いていくものと思われる。こうした人間関係やネットワークの萌芽を得られたことが今回の派遣研究の一番の成果であったと考えている。

### 派遣後の研究発表の予定

2011年11月に開かれる、特定非営利団体法人神戸定住外国人支援センター主催の「ベトナム人を理解する」という講演において、今回の派遣研究の成果の一部を報告する。この他にも、調査の成果をひとつの論考としてまとめながら、主に地域社会で活動するNGOの研究会で報告することを予定している。



グライドメモリアル教会の外観



Free Meal が提供される、教会内のダイニングルーム



ダイニングルームにおける規則



Indochinese Housing Development Corporation の放課後プログラムの様子



Vietnamese Elderly Mutual Assistance Association が週に一度行う食材提供を受ける高齢者

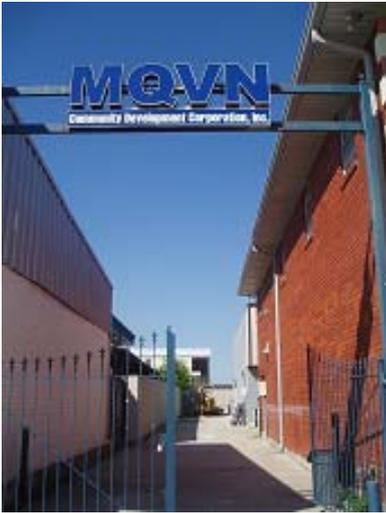


ロサンゼルスでの在米ベトナム人家族宅を訪問  
訪米中の在米ベトナム人親族とのホームパーティ



リトル・サイゴン内のフォー（ベトナム麺）店内

裏面に続く



ニューオーリンズの Mary Queen of Vietnam Community Development Corporation



コミュニティの人々によって栽培されたベトナム野菜を市内に売りに行くスタッフ



CDCのスタッフ。専従スタッフの平均年齢は31歳



ベトナム人カトリック教徒を中心とするニューオーリンズのベトナム人コミュニティ。マリア像の置かれた家が散見される



コミュニティの中心にあるカソリック教会のミサに集う人々



飼育した鶏を絞める  
ベトナムでの生活習慣は渡米後も変わらない



同地区に定住して以来、毎週開かれてきた、土曜日のベトナムマーケットにて野菜を販売するベトナム人高齢者



地区内外からベトナムマーケットに買い物に来る人



コミュニティ内に残された、カトリーナ後、地域を離れた住民の未修理の家

裏面に続く